



本殿から御船の渡御の送り出しが始まる



帆を張った御船が旅をする

遠江・山と里の民俗

会報 第024号

国選択無形民俗文化財

呉松町の曾許乃御立神社御船行事

令和6年9月29日(日) 浜松市中央区呉松町

そのみたち

館山寺街道の呉松町を通ると大きな石の鳥居が目に入ります。曾許乃御立神社の第一の鳥居で本殿に通じるまでに第三の鳥居まであります。神社は奈良時代の創建と伝えられ『延喜式』に数智郡六座の一つとして記載された式内社です。ご祭神は建甕槌命（たけすねづちのみこと）です。

神社の由来はご祭神が常陸国の鹿島神宮から奈良の春日大社へ向かう途中、根本山の船岩で休息を取った折に請願して分霊を祀ったと伝わることから、このお祭りは、例大祭の日は船に乗せて御旅所で休息を取っていたのだものと考えられています。

曾許乃御立神社社名の由来は当地が鹿島神宮の社地と景色が似ていることから「そこに社を立てることを許す」と大明神の思し召しと言われています。

曾許乃御立神社御船行事は、鹿島祭とも呼ばれ、氏子十五力村から御造酒・御多賀弥米糠を水で練ったもの（を）を奉る。曾許乃御立とは船の事をいうらしく、当日は船の形をした神輿が御旅所へ出御、神樂が奏せられる。社殿は浜名湖へ向き、湖岸の漁民の守護神として仰がれる。『浜松市史』より



お旅所で祭礼をしたあと本殿にお迎えする

本殿での神事後、午後2時45分頃、拝殿前からご神体に乗せた御船の渡御（送り出し・お迎え）が始まる。



神楽殿では稚児舞が奉納される

ります。本来年男4人が、船形の御神輿を担ぎますが、今は中学生が参加しています。行列は先導・鉦・大鉦を持つ猿田彦・神・旗・弓矢・太刀・幣を持つ小学生・御船と続きます。本殿から西に100mほど離れた御神輿堂と呼ばれる御旅所まで歩いて渡御します。

御旅所に着くと舳先を本殿に向けて御船を納め、そこで祭典をして、本殿へと帰途に着きます。

境内にある神楽殿では、幼稚園児や小学生による稚児舞が奉納されます。

『曾許乃御立神社リーフレット』参考



ふじのくに文化財保存・活用推進団体表彰 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会

平成25年(2013)10月に民俗芸能19団体で発足し、天竜区役所で鈴木市長(当時)のもと発会式を行ないました。平成28年には議会でも議員発議で民俗芸能の継承及び振興に関する条例が採択されました。発足から11年がたち現在22団体に増えました。今回は県庁で文化財保存・活用推進団体として鈴木康友知事より表彰され、お祝いの言葉をいただきました。

南北に長い浜松市ですが各地域で中世から受け継いでいる民俗芸能を次世代に継承していく役目を負っていると感じています。静岡県でも民俗芸能を官民一体となつてつなげていけるようなればと思っています。

今回は誠にありがとうございます。



市長室にて報告

中野市長を表敬訪問

令和6年11月8日

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会の10年間の活動報告と「遠江・山と里の民俗」の発行、次世代継承など報告をしました。

その日は静岡文化芸術大学の教授とともに面の調査の展示発表と川合花の舞の実演と講演を行うポスターを持って訪問し、市長から励ましのお言葉をいただきました。

市長「寺野ひよんどり」 横尾歌舞伎」を鑑賞



1月3日 「寺野ひよんどり」宝蔵寺にて



白浪五人男 稲瀬川勢揃の場

浦川歌舞伎 浦川小学校閉校記念公演 千秋楽

令和元年から浦川の学習発表会において、小学生による上演が継続されてきました。浦川小が来年度から佐久間小への統合が決まり、令和7年2月28日に千秋楽として特別公演を保存会が化粧と生演奏をいれて、実施しました。

統合先である佐久間小との交流事業として佐久間小から全児童・保護者・教員が訪れ、観覧しました。



10月13日 「横尾歌舞伎」開明座にて

今、ここにある祭礼を見つめて

NPO 法人わたぼうしグラウンドデザイン

学生理事 古水しおり

私は大学2年生からNPO法人「わたぼうしグラウンドデザイン」に所属し、「勝坂神楽」と「川名ひよんどり」の継承活動に携わってきました。これまで踊り手として祭りに参加するほか、子どもたちへの体験教室の実施や、一昨年には川名ひよんどりの舞台倉庫にシャッターアートを制作するなど、普及・発信活動にも取り組みました。活動

する中で、祭礼のあり方について、多様な視点から考えることの重要性を学ぶことができたと思っています。私は他県の出身であり、本来であればただ鑑賞する立場に過ぎませんでした。しかし、縁あって演者として参加し、さらに運営にも携わることができました。演者としての経験の中で、特に印象に残っているのが、川名ひ



春野「勝坂神楽」の維持・継承に務める

よんどりの「はらみの舞」です。この舞は、お堂の本尊の前で奉納されるものです。ほの暗い空間の中、提灯の明かりに浮かび上がる本尊の姿は非常に神秘的で、神と直接向き合っているかのような心持ちになりました。何百年もの間、この空間で踊り継がれてきたことを思うと、身体が時空を超え、川名に生きた人々と繋がっている感覚が生まれました。このような精神性を体得できたことは、祭礼という文化の理解を深める上で、非常に貴重な経験でした。

祭礼に参加する中で、喜びや楽しさ、神への畏怖や感謝といった、地域住民の心象を捉えるだけではなく、現代社会において祭礼を維持することの苦労や葛藤も見えてきました。少子高齢化に伴う担い手不足で、運営が住民にとって負担となっていること、地域コミュニ



「はらみの舞」を舞う筆者

ティが脆弱になり、次世代への継承が繋がらないことなど、多くの課題を抱えている状況にあります。しかしその中でも、課題を乗り越えるために、変化を受け入れ、日々試行錯誤する姿があります。祭礼は、一見すると今日まで変わらずあり続けているようで、常に社会の変動に影響されており、それに対する担い手たちの選択の連続こそが、祭礼の姿であると言えると考えます。こうした視座も、活動を通じて得ることが出来ました。

今日の祭礼は、地域住民のアイデンティティを醸成し、地域住民のつながりを維持する大切な存在となっています。だからこそ、続けていくために、守るべきもの、変えるべきものは何かを問い続けることが求められているのです。その際、担い手と話し、共に考え、実践することが、協力者である我々の役割であると考えます。私は地域の皆さんに近い存在として、これから今、ここにある祭礼の姿を見つめ続けたいと思っています。

小学生が無形民俗文化財を調べて
まとめた自由研究が2件、受賞し
ましたので、紹介します。

■私がつなぐ今田花の舞

第28回図書館を使った

調べ学習コンクール優良賞(全国)

水窪小学校6年 坂本那実

今田花の舞は、佐久間町今田に
江戸時代から伝わる湯立神楽で、
毎年十一月に開催されます。

坂本さんは、禰宜様の跡継ぎが
いないため存続の危機であること
を知り、今田花の舞を後世に残し
たいという思いから自由研究を書
いたそうです。

【自由研究の内容】

第一章 今田花の舞はいつから始

まったか

第二章 お宮の装飾にはどんな意

味があるか。

第三章 舞の数とお面の数はいくつ？

・実際に舞を見てみよう

・『祭典の舞』を実際に舞を習っ

て読み解く

・ひのう様みずのう様に関する疑問

・ねぎ面おに面の問答を読み解く

第四章 今田地区のみなさんに

インタビューをしよう



・花の舞の「うたぐら」とは？

・現在使われていない楽器

第五章 今田花の舞と東栄花祭を

比べる

【祭りを途切れさせない

ための提案】

★提案その一

人がくる仕組みを作る

インタビューをして、昔はおで

んやお菓子の出店があつたことを

知りました。子どもや若い人が来

たいと思うイベントを企画したい

と思います。今田地区を成人して

出て行った人が結婚して子どもが

できたら、その子どもを連れて祭

りにきてくれるかもしれません。

子どもが4人そろえば、花の舞が

復活できるかもしれません。

★提案その二

女性でも参加できることを増やす

今はやっていない「うたぐら」

を私が歌います。それをきっかけ

に女性でも歌ってもらいたいです。

最後に「私ができる小さなこと
を積み上げて、この祭りを守って
いきたいです」と結んでいます。

■川名のひよんどり

〜後世にまで残したい伝統芸能〜

令和6年度 浜松市小中学校

社会科自由研究優秀作品展

博物館奨励賞 井伊谷小学校

6年 森下依楓 6年 佐藤双葉

6年 前島佑菜 6年 鈴木真那斗

6年 伊藤アンジェラ美花

川名のひよんどりは、引佐町川
名に約600年前から伝わる正月行事
で五穀豊穡、子孫繁栄、無病息災
の祈りを込めて行われます。

★自由研究は、

①ひよんどりとは

②川名のひよんどりについて

(保存会への質問)

③川名ひよんどりと寺野ひよんど

りの比較

この3つで構成されています。

筆者の中には、一月四日の祭礼で

舞を舞っている子どもが二人もい

て、実際に舞った感想が書かれて

います。

・私は順の舞をおどることができ
て、とても嬉しかったです。そ
れは、何年も前から受け継がれ

ている「ひよんどり」だからで
す。衣装・すず・扇子・刀も以
前から使っている道具を自分が
使っていると考えると、とても
嬉しいですね。

・踊っている時は大勢の人たちが
います。でも一回踊っちゃえば
はしゃしくなくなります。踊る
のが意外と楽しいです。

【研究を終えての感想】

・ひよんどりをまだまだ続けてほ
しい。ひよんどり保存会の人た
ちに話を聞いて地域の熱意が伝
わった。

・順の舞を踊ったことはあるけれ
ど、川に入る意味やお面に名前
があることは知らなかった。昔
の人が行ってきたことが今の川
名のひよんどりにつながってい
ることがわかってよかった。

・私が住んでいる地域だけど知ら
ないことがたくさんあり、研究
でわかるようになった。

